

自社のESGレベルを診断したい企業様を募集します

～ 「ESG診断『企業エシカル通信簿』』 についての実証実験」 ～

1. ESG診断の実証実験について

このたび、大阪大学の研究者の取組として、企業様のESG（環境、社会、ガバナンス）の状況を把握・比較し、またESGに関する課題を捉えることで、今後の企業におけるESGの診断や改善についての知見を得ることを目的とした実証実験を行うことといたしました。有志の企業様に自己診断をしていただき、企業様にメリットを得て頂きながら、結果等をフィードバックしていただくことで、社会にも役立てさせていただくものです。ESGの診断分野は図表1をご参照ください。

研究代表者は、大阪大学社会ソリューションイニシアティブ（SSI）教授の伊藤武志（博士（経営学））です。

2. ESG診断について

この研究で利用するESG診断の体系は、「消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク」（SSRC）が数年来、第三者として企業を診断するために改善・利用してきたものです。この取組はSSRCが「企業のエシカル通信簿」と呼ぶものです。今年度は、より多くの企業の皆様にESGのレベルを診断し改善につなげていただくために、汎用的な評価票を作成しました（図表2ご参照）。

この診断には「市民目線からの評価」という特徴があります。NGO/NPOが、市民目線や専門性を踏まえて評価票を作成・監修しています。この取組に参加いただくことで市民目線の理解にも繋がり、先進的な取組をされているという評価にもなります。

ESGやSDGs、CSRが上場企業やその取引先に求められるなかで、多くの企業様が、こういった経営に向けて改善する方法論にもなります。

3. 企業様の協力内容

企業様による調査表をつかった自己診断の結果等としては、診断票への回答・証憑や点数など企業様のESGの状況や、評価票の様々な点からの改善点、評価票や企業様自身の課題などをフィードバックいただきます。

複数の企業に参加いただく予定で、企業間で限定された情報を共有することも考えています。

図表 1. ESG診断における診断分野

今回の実証実験においては、以下のESG診断分野について、自社の現状のレベルをはかることができます。

G ガバナンス	1サステナビリティ体制
	2消費者の保護・支援
	3人権・労働
	4社会・社会貢献
	5平和・非暴力
	6アニマルウェルフェア
	7環境
S 社会	Aガバナンス
	B気候変動
	Cごみ削減
	D生物
	E化学物質
E 環境	F水

図表 2. 「企業のエシカル通信簿」の今年度の取組

「企業のエシカル通信簿」
自主調査企業・レビュー対象企業募集のお知らせ

締切日が変わりました

気候変動や海洋プラスチックなどの環境問題、児童労働やジェンダー平等、ハラスメントなどの人権問題が大きくクローズアップされてきた現代社会において、企業には、本来の事業活動にこれらの社会的問題への解決行動を内包することが求められています。

「わが社のSDGs活動、CSR活動は、適切な課題設定と活動内容になっているのか？」「社会や消費者に理解、評価されているのか？」に自信はありませんか？一方で消費者やNGOからは、どこかの企業のSDGs・CSR活動を評価すべきの知識はない、という声も高まっています。

こうした社会的ニーズに応えるべく、消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク（SSRC）では、2016年から「企業のエシカル通信簿」プロジェクトを開始し、これまでに9業種の大手42社を対象に「持続可能な開発」「環境」「消費者」「人権・労働」「社会・社会貢献」「平和・非暴力」「アニマルウェルフェア」の7分野について、調査・評価し、結果を発表してきました。

調査対象企業からは「市民目線の調査を受け、学ぶところが多かった」という好意的な感想を、関心ある消費者・研究者・学生などからは意欲あるプロジェクトであると注目を集めた一方、対象企業の拡大を求める声も多く聞かれました。

そこで2021年度には、従来通りの業種・企業数を絞った調査とともに、同じ調査票を用いて「自主調査」を行う企業を募集することになりました。また自主調査を行った企業のうち、希望される5社までに対し、「自主調査」の内容につきSSRC側がレビュー（審査）を行い、従来のエシカル通信簿と同様に採点・評価、レイティング、結果発表まで行うことにしました。

つきましては、裏面の募集要項をご覧ください。お申込みくださいますようお願いいたします。多くの企業のご参加をお待ちしています。

募集する企業
（*対象業種・事業規模による制限はありません）

(A) 自主調査企業 数に上限なし
SSRCの「企業のエシカル通信簿」調査票を用いて、任意に自社のエシカル活動の調査を行う企業

(B) レビュー対象企業 5社まで
自主調査を行う企業のうち、SSRCのレポート（調査）を希望する企業

申込み受付期間
(A) 自主調査のみ
2021年7月12日～12月31日
(B) レビュー対象
2021年7月12日～10月31日（先着順）

参加費 本プロジェクトへの参加に必要としてお断りして頂いています
(A)(B)共に1社につき1万円(税込)

申込み方法・要件
（*詳細は裏面をご覧ください。）

*企業の規模は問いません。A(B)の申込みは、「CSR報告書」等をウェブサイト上に公開している企業に限ります。
*調査費は入念な確認作業を9月15日以降お済みください。

*（B）は、対象企業は同業種入浴の調査票を2021年11月15日までに返送していただく（※別紙参照）

申込み・問い合わせ
自社の持続可能な社会への取り組みを共有
ssrc@kankyoshimin.org

自社のESGレベルを診断したい企業様を募集します

～「ESG診断『企業エシカル通信簿』』についての実証実験」～

4. 実証実験に参加することで企業、社員、業界、社会が得られるメリット

① ESG経営知識・感覚のアップ

評価票を読んで理解することで、ESGのレベルがアップします。今の時代に仕事をする上で、考えるべき要素が網羅されているので、人材のESG感度が高まり、チャンスが増えリスクは下がります。

② ESG状況把握・課題把握・目標設定・改善のPDCA促進

実際にチェックすると、自社の現状がわかり、課題もみえてきます。さらに課題が見えれば改善目標を決めることができ、投資や行動がしやすくなり、改善が実際になされればESGのレベルが向上します。参加企業間で自己診断や振り返りを共有すればさらに様々なことが学べます。

③ ESG取組実践の開示による信頼向上

ESG診断・改善活動の実施やその内容の一部を開示すれば、会社としての信頼性が増し、「市民目線の評価」でもあることから、取引先や消費者の評価が高まります。またNPO/NGOと、事実に基づいた対話をし、改善に繋げることも可能であり重要です（図表3をご参照）。

④ 持続的な企業へ

取引先や消費者の評価がたかまると、売上げも安定・向上し、長続きする会社になります。SDGs認証など獲得準備にもなります。

⑤ 社員への良い影響

ESG診断による改善や取引先・消費者の評価がたかまると、社員の能力向上、労働環境の改善、社会貢献のレベル向上、社員のやりがいも向上します。

⑥ 他社・業界・社会への良い影響

自社のESG診断・改善・結果を、業界他社等に伝えることで、他社のレベルアップが促されます。このように、自社が地域や業界でリーダーシップを取ることができ、地域・業界・社会もよくなります。またそれによって自社の評価は高まります。

図表3. 企業との対話・共創例

図表3. 企業との対話・共創例

NPOとの対話を通じた社会との共創

アサヒグループは、2019年に「消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク」(SSRC)が実施する「企業のエシカル通信簿」の調査に協力しました。それを機会に2021年、同ネットワークに参加している消費者団体や環境活動団体などの代表13名とアサヒグループのサステナビリティ担当者で意見交換会を開催、「持続可能な社会をともに構築するための企業と消費者・市民の在り方」をテーマに対話しました。最近のエシカル消費の動向や企業への期待などについて説明を受けるとともに、「消費者による商品の選択は企業への最大のメッセージ。消費者がESGなどサステナビリティ活動に熱心な企業の商品を選択しやすい社会をつくりたい。」という意見をいただきました。アサヒグループは、こうしたNPOとの対話を通じて、多様な意見を耳を傾け、環境への取組みに活かしています。

また、アサヒグループは、さまざまなネットワークにも積極的に参加し、企業の枠を越えた対話や協働を通じて、社会課題の解決に取り組んでいます。2020年12月には、CO₂排出量削減に向けて関心が高まっている水素の利用促進を目指す「水素バリューチェーン推進協議会」に参加しました。2021年3月には、持続可能な脱炭素社会実現を目指す日本の企業グループ「日本気候リーダーズ・パートナーシップ」に加盟、会員企業とともに活動を推進しています。

SSRC発行「2019年度『企業のエシカル通信簿』プロジェクト報告書」

※アサヒグループホールディングス（2021年）「アサヒグループホールディングス環境報告書」14ページより

5. 実証実験に参加する場合のコスト

実証実験に参加いただく企業には、「消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク」(SSRC)が2021年に実施していた自己診断票の利用の募集の際にお願いしていた1社1万円は無料にいたしますが、企業や社会のESG向上のための市民団体が行っているこのような活動に賛同いただける企業さまの応援、ご寄付等を歓迎いたします。

SSRCのサイトはこちら <https://cnrc.jp/>

6. 実証実験に関する御連絡・ご照会先

大阪大学 社会ソリューションイニシアティブ 教授 伊藤武志

Mail Address: takashi-ito@ssi.osaka-u.ac.jp

電話番号: 06-6105-6183